

多文化共生社会の担い手へ（主な人権課題:外国人）

近年のグローバル化に伴い、兵庫県では157カ国・地域、11万人を超える外国人県民が居住しており(令和2年6月末現在)、言語や文化などの多様化が進んでいます。このような中、県内でも多様性を生かして地域を活性化させる取組が進められています。多様な文化的背景をもつ人々が豊かに共生する社会づくりを一層進めるために、私たち一人ひとりにできることを考えてみましょう。

- 中学2年生の時に来日し、県立学校を卒業した外国人生徒の作文を読み、来日してから直面した壁やそのときの本人の気持ちから、「多文化共生社会」の実現のためにできることを考えてみましょう。

「新しい自分」

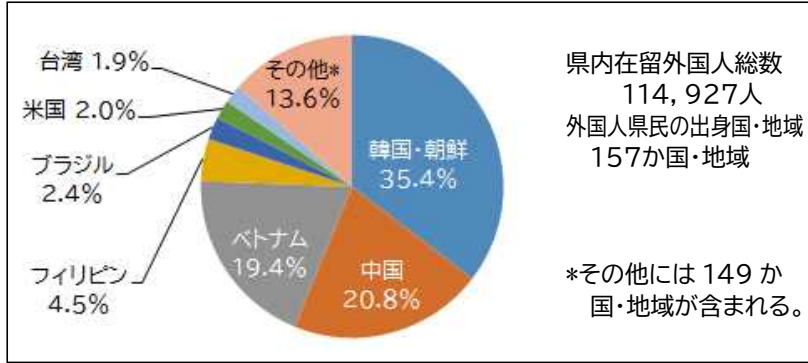
私は小さい時からずっと母と離れて、祖母と過ごしていました。中学校2年生の1学期、母からの電話が私の運命を変えました。「日本に来るつもりなら、早めに来て日本語を勉強するほうがいいよ」と。私は、日本に来ると決心したものの、今でも機内での微妙な気持ちを覚えています。大好きな祖母や友人と離れる寂しい気持ちと、母と一緒に暮らせるうれしい気持ちで複雑でした。実際、日本に来てからは、私はとても辛くなってしまいました。

1つの理由は、母との関係が良くなかったことです。小さい時から母と離れて暮らしていたため、お互いを理解し合う事ができず、母と話すのが辛くなり、喧嘩ばかりでした。また、日本語を全く話せなかったことはとても大変でした。最初、クラスメートたちは、英語で頑張って話しかけてくれましたが、お互いに簡単な英語しか話せないのも、だんだん会話が少なくなってしまいました。そのため、学校で話すことが嫌になり、「毎日学校へ行っているのに、何も分からなかったし、友だちもいないし、学校はつまらない。」と落ち込み、中学2年の2週間くらい、母にも内緒で学校を休んでしまいました。学校を休んでいる時、兄の「私もそういう時期があった。でも、これはあなたにとって貴重な経験だよ。今の辛さを乗り越えると将来きっと立派な人になれるよ。」という言葉に励まされました。それからは、日本語を頑張って勉強しました。母が毎日仕事をするのは大変だということも理解でき、喧嘩がなくなりました。学校にいる時にも、日本語でクラスメートと話すように努力しました。高校では、外国人生徒を支援する外国人枠入試がありました。日本語の授業だけでなく、現代文などは、取り出し授業を受けることができ、先生はより簡単な日本語で説明してくれました。放課後の支援もあり、日本での高校生活にも慣れてきました。日本語が上達するにつれて、私は、将来、日本語に困る外国人を助けたいと思うようになりました。

私は日本に来て、実感したことは、言葉だけでなく文化の違いを理解しなければ、お互い分かり合えないということです。小さな文化のすれ違いで誤解が生じることがあります。例えば日本人の「曖昧な表現」です。中学生の時、「ジュースを学校に持ち込むのは禁止」の校則を知らなかった私は、日本人の友だちに「ジュースを持ってきたの？それはちょっと…」と言われました。この言葉を理解できず、本当の意味を尋ねました。友だちが「ジュースを学校に持って来るのはだめだよ。」とってくれたので、その言葉の意味がやっと分かりました。日本人は相手の立場に立ち、相手を傷つけないように、言葉に気を遣っています。これは日本の文化だと思います。でも外国人の視点からだと分かりにくいです。だから、コミュニケーションをするために、相手の国の文化も学ぶ必要があると思いました。

私は将来、自分の語学力で言語に困る人を助けられる通訳士になりたいです。言葉だけでなく、国と国の文化を発信できるような架け橋になりたい。そしてもっと「新しい自分」を発見していきたいです。

○ 県内在住外国人の国籍・地域別の割合



(出典:法務省在留外国人統計、令和2(2020)年6月末)

○ 夜間中学校について

義務教育未修了者や不登校などのさまざまな事情により十分な教育が受けられないまま中学校を卒業した人のほか、外国籍の人が学ぶ場として役割が広がっています。

国内最古の夜間中学で文化発表会

神戸 来年1月に創立70周年を迎える夜間中学校の神戸市立丸山中学校西野分校(同市須磨区大黒町5)でこのほど、文化発表会が開かれた。3年生9人は全員がネパールや台湾など海外出身の生徒たちで、3カ月前から文化祭の準備を始めた。丸山中学西野分校は、戦後期の混乱の中、仕事などで中学校に行けない多くの子どもたちも通った。文部科学省によると、2019年現在、全国には33の夜間中学校があり、50年に開設された西野分校は全国で最も古いという。来日外国人の増加に伴い、現在は在籍する29人中、25人が外国籍の生徒だ。

西野分校は1970年1月、同中学校・室内小学校分教場としてスタートした。戦後期の混乱の中、仕事などで中学校に行けない多くの子どもたちも通った。文部科学省によると、2019年現在、全国には33の夜間中学校があり、50年に開設された西野分校は全国で最も古いという。来日外国人の増加に伴い、現在は在籍する29人中、25人が外国籍の生徒だ。

丸山中学西野分校は、戦後期の混乱の中、仕事などで中学校に行けない多くの子どもたちも通った。文部科学省によると、2019年現在、全国には33の夜間中学校があり、50年に開設された西野分校は全国で最も古いという。来日外国人の増加に伴い、現在は在籍する29人中、25人が外国籍の生徒だ。

「幸」「楽」…漢字に思い込め

外国籍の生徒ら学習の成果を大書

「幸」「学」「福」…。学校で学んだ好きな漢字を発表する丸山中学校西野分校の3年生の生徒たち(神戸市須磨区大黒町5)

「今の生活は苦しい時もついでに、『幸』という漢字を選んできました。でも、いつか幸せになると信じているから『幸』を選びました。『西』さんの(西)は最後の文化祭が終わってしまいましたが、勉強は一生懸命にやっています。西野分校での経験を通して、何でも学べたんだと実感しています。」と感動を話した。

(出典:神戸新聞 令和元(2019)年11月14日付け)

○ キーワード

◆ 多文化共生

「多文化共生の推進に関する研究会」(総務省、平成18(2006)年)では、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としている。

◆ ひょうご多文化共生社会推進指針(令和3(2021)年3月)

外国人県民を含むすべての県民が相互に理解し、ともに支え合うことにより、各人が自己を活かすとともに、地域への参画と協働を担うことのできる多文化共生社会実現のため、兵庫県が平成27(2015)年に作成した推進指針。社会環境の変化や新たな課題にも対応し、改定を行った。

◆ 出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律(平成30(2018)年)

新たな外国人材受入れのため「特定技能」という在留資格が創設された。人手不足が深刻な業種での人材確保が期待されるが、共生社会づくりの推進がより重要となる。

○ 関連機関・施設等

- ◆ 子ども多文化共生センター
- ◆ (公財)兵庫県国際交流協会
- ◆ 国際協力機構(JICA)

○ 参考資料

- ◆ 『百花繚乱 ひょうごの多文化共生150年の歩み』竹沢泰子・樋口大祐・兵庫県国際交流協会編(神戸新聞総合出版センター、令和3(2021)年)



◇ 「やさしい日本語」

普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のこと。平成7(1995)年1月の阪神・淡路大震災では、多くの在日外国人が、日本語が十分理解できず必要な情報を受け取ることができないことがありました。そこで考え出されたのが「やさしい日本語」です。小学生低学年で習うような簡単な漢字と、ひらがな、カタカナが用いられ、災害時のみならず平時の外国人への行政や生活などの情報提供手段として取組が広がっています。



神戸YWCA
「やさしい日本語」

考えてみよう

- Q1. 外国にルーツをもつ人々が、日本に暮らすようになった歴史的な背景を調べてみよう。
- Q2. 日本で暮らす外国人や外国人児童生徒がどんなことに困っているか考えてみよう。